

平成28年度 学校評価における自己評価結果

本年度の重点目標(学校長より)

- 1 「つもり」学習をやめさせ、「気づかせる」学習を図る
- 2 創造型実践技術者の育成を図る
- 3 自らの専門性向上を図る
- 4 教職員がお互いに支え合い、明るい職場環境づくり

八幡が丘ウエイ(学校長より)

「生徒の可能性を信じ、手間と時間を惜しまない」

1 「つもり」学習をやめさせ、「気づかせる」学習を図る A:6(42.9%) B:4(28.6%) C:2(14.3%) D:2(14.3%)

1	部・科・学年	学習指導部
3	努力点	「気づき」を重視した学業指導による、「学ぶ意識」の高揚
4	評価項目	生徒の授業に臨む意識（姿勢）はどうか
9	評価結果	A：「実践できた」の職員数＝90、3%
10	改善されたこと	一方的な授業ではなく、考える機会を与える授業を工夫するように、教える側の意識が変わってきた。
11	結果から見た改善策	良好な結果であったが、「気づかせる」学習へと導く指導を目標に、教員同士の学び合いの機会を増やす。

1	部・科・学年	学習指導部
3	努力点	生徒理解に立った教科指導による、基礎学力の確実な習得
4	評価項目	生徒理解に立った教科指導を実践できたか
9	評価結果	A：「実践できた」の職員数＝92、7%
10	改善されたこと	年2回の校内授業公開旬間が、各授業の工夫改善に役立った。
11	結果から見た改善策	良好な結果であったが、校内授業公開旬間のよりよい実施回数・時期・方法などを検討していく。

1	部・科・学年	特活指導部
3	努力点	生徒が自主的に行動し、生徒会行事の充実
4	評価項目	生徒会行事に積極的に参加できたか
9	評価結果	A：90.5%多くの生徒が積極的に参加できた
10	改善されたこと	生徒会に積極性が出てきた
11	結果から見た改善策	行事内容の精選

1	部・科・学年	生徒指導部
3	努力点	基本的な生活習慣の徹底
4	評価項目	遅刻数の減少を目指す指導
9	評価結果	A (445<682)
10	改善されたこと	落ち着いた学校生活が出来ている。
11	結果から見た改善策	全学年の総数では減少傾向ではあるが、学年別の遅刻数を比較すると学年が上がるにつれて遅刻数が多い。

1	部・科・学年	生徒指導部
3	努力点	交通安全意識の向上
4	評価項目	自転車及び原付二輪車における安全運転（ルール・マナー）の意識向上
9	評価結果	B (10>10)
10	改善されたこと	昨年度比と同数。事故よりも交通に関する問題行動が多かった。
11	結果から見た改善策	二輪車安全教室及びLHRの安全教室を継続して行う。死亡事故を起こさない。

1	部・科・学年	進路指導部
3	努力点	自己理解をもとにした将来の目標設定
4	評価項目	3学年における進路の選択状況
9	評価結果	A：決定済み90、8%
10	改善されたこと	進路において、就職か進学かの決定状況は昨年度同様であった。
11	結果から見た改善策	進学の意思決定は早い。就職においては、職種や業種、企業の絞り込みも早めていきたい。

1	部・科・学年	渉外部
3	努力点	会員及び地域社会との連携
4	評価項目	PTA総会の出席率の向上
9	評価結果	C
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	保護者への周知徹底が不十分だった。日程変更も含めて検討したい。

1	部・科・学年	機械科
3	努力点	資格取得の合格率の向上
4	評価項目	情報技術検定合格率（継続）
9	評価結果	D
10	改善されたこと	インフルエンザのため28名の受検となり、合格率も36%にとどまった。
11	結果から見た改善策	授業以外の放課後等の補習指導をさらに充実させていく必要がある。

1	部・科・学年	生産機械科
3	努力点	定期試験の平均点向上
4	評価項目	クラス平均点
9	評価結果	B
10	改善されたこと	授業に対する取組
11	結果から見た改善策	授業に対する取組集中力をさらに高める

1	部・科・学年	1学年
3	努力点	基礎学力を身につけ、自ら学ぶ姿勢を育む
4	評価項目	基礎テストによる評価
9	評価結果	漢字 A 平均人数1人 ・ 数学 B 平均人数6人
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	自宅学習の見直し。毎回同じ生徒が欠点を取っているので、意識改革と意欲の向上を図る。

1	部・科・学年	2学年
3	努力点	基礎学力を身につけ、自ら学ぶ姿勢を育む
4	評価項目	基礎テストによる評価
9	評価結果	漢字テスト D（平均20人） 数学テスト C（平均13人）
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	事前学習が足りない。次年度はより意識を高くさせたい。

1	部・科・学年	3学年
3	努力点	基礎学力の定着と学ぶ姿勢を育む
4	評価項目	基礎テストによる評価
9	評価結果	B：漢字11.4人 数学7.7人 平均9.6人
10	改善されたこと	漢字については昨年より欠点者が減少した。
11	結果から見た改善策	事前の指導体制の見直し、基礎テストの重要性を指導する必要がある。

2 創造型実践技術者の育成 A:11(73.3%) B:4(26.7%) C:0(0%) D:0(0%)

1	部・科・学年	学習指導部
3	努力点	学習環境の確立
4	評価項目	職員へのアンケート調査（「生徒の授業に臨む姿勢について」）
9	評価結果	A：「実践できた」の職員数=92.7%
10	改善されたこと	年2回の校内授業公開旬間が、各授業の工夫改善に役立った。
11	結果から見た改善策	良好な結果であったが、校内授業公開旬間のよりよい実施回数・時期・方法などを検討していく。

1	部・科・学年	特活指導部
3	努力点	部活動の活性化
4	評価項目	部活動に加入し、積極的に参加できたか
9	評価結果	A：80.4%一年生の高い加入率が得られた
10	改善されたこと	入学時に加入促進を促すことで、大幅に加入率が上がった
11	結果から見た改善策	部活動加入生徒の積極的活動

1	部・科・学年	生徒指導部
3	努力点	ボランティア精神の徹底（真岡線駅舎清掃活動への積極的参加）
4	評価項目	参加生徒の取り組み状況
9	評価結果	A；100%
10	改善されたこと	昨年度は雨のため実施できず。北真岡・西田井駅とも良く活動できていました。
11	結果から見た改善策	来年度以降においても継続実施するので、ボランティア精神向上に繋げていきたい。

1	部・科・学年	進路指導部
3	努力点	進路希望の実現
4	評価項目	就職採用試験、上級学校入試
9	評価結果	A：1次募集での合格率87.5%。
10	改善されたこと	昨年度は86.9%であり、やや向上した。
11	結果から見た改善策	求人数の増加したものの、就職試験への準備や、労働に対する意識がやや低いので、入学時からの計画的な指導が必要。

1	部・科・学年	健康安全指導部
3	努力点	疾病の予防及び健康意識の向上
4	評価項目	健康情報の提供状況
9	評価結果	A
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	来年度も継続して実施したい。

1	部・科・学年	健康安全指導部
3	努力点	環境の美化
4	評価項目	施設設備の安全点検の実施状況
9	評価結果	A
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	来年度も継続して実施したい。

1	部・科・学年	工業管理部
3	努力点	実践的技術者として「他人の話を聞ける」「つねに思考できる」という力の育成を図る。
4	評価項目	「聞く」「考える」という授業の展開ができたか。
9	評価結果	B
10	改善されたこと	「聞く」「考える」ことに主眼をおいて授業ができた。
11	結果から見た改善策	さらに、推進していきたい

1	部・科・学年	機械科
3	努力点	幅広い専門性の向上
4	評価項目	新たな職種の技能検定へのチャレンジ
9	評価結果	A
10	改善されたこと	今年度、新たに「技能検定3級ミソグセンター作業」の実技を生徒に指導し、検定に合格させることができた。
11	結果から見た改善策	今後とも、本校の施設・設備等も考慮しながら、生徒に新しい職種に挑戦させていく。

1	部・科・学年	生産機械科
3	努力点	自ら考え技能向上に取り組む人材の育成
4	評価項目	外部大会等への参加
9	評価結果	B
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	次年度も推進していきたい

1	部・科・学年	建設科
3	努力点	3S（整理・整頓・清掃）による学習環境の向上
4	評価項目	実習室等の3S（整理・整頓・清掃）活動の状況
9	評価結果	B
10	改善されたこと	職員の意識向上
11	結果から見た改善策	今後も継続して実施していく。

1	部・科・学年	建設科
3	努力点	未経験のものづくりに対しても、創意工夫をこらして取り組む
4	評価項目	ものづくりを通じた地域連携・地域貢献活動の実績（真心工房など）
9	評価結果	B
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	今年度は2件の依頼があったが、1件は実施に至らなかった。

1	部・科・学年	1 学年
3	努力点	基本的な生活習慣の確立
4	評価項目	出席率・遅刻率
9	評価結果	1 学期 A 出席率 99.75%・遅刻率 0.20% 2 学期 A 出席率 99.21%・遅刻率 0.49%
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	基本的な生活習慣の確立を図る。

1	部・科・学年	2 学年
3	努力点	全生徒の進路目標を考えさせる
4	評価項目	進路実現に関するアンケートや面談を実施
9	評価結果	A (3%)
10	改善されたこと	12月の時点では上記の結果であるが、まだ悩んでいる生徒もいるので今後も継続的に指導したい。
11	結果から見た改善策	現時点ではまだ具体的には考えられていない生徒が多いので今後もっと具体的に考えさせる。

1	部・科・学年	2 学年
3	努力点	基本的な生活習慣の確立
4	評価項目	出席率・遅刻率
9	評価結果	1 学期 A (出席率 99%遅刻率 0.4%) 2 学期 B (出席率 98%遅刻率 0.6%)
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	3 学年になることを考え、生活習慣に関して意識付けをしていきたい。

1	部・科・学年	3 学年
3	努力点	基本的な生活習慣の質の向上を図る
4	評価項目	出席率・遅刻率
9	評価結果	A : 目標値をクリア (出席率 99.2%、遅刻率 0.8%) ※11 月末日現在
10	改善されたこと	前年度 3 学年同時期よりやや改善
11	結果から見た改善策	進路決定以降の生活の質の維持が課題である

1	部・科・学年	3 学年
3	努力点	全生徒の進路実現
4	評価項目	進路実現に関するアンケートを実施
9	評価結果	B : 93.1%
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	求人数は昨年度より多く内定率も高かったが、情報を的確に掴めておらず、企業研究の必要性を高める。

3 自らの専門性向上を図る A:4(57.1%) B:2(28.6%) C:1(14.3%) D:0(0%)

1	部・科・学年	教務部
3	努力点	教員研修の充実
4	評価項目	研修の開催回数
9	評価結果	A (エビベン5/27、救急法6/14、技術者倫理・安全教育9/20、若手教員育成研修10/13,11/14,12/15,1/17)
10	改善されたこと	技術者倫理・安全教育、若手教員育成研修を今年度から導入
11	結果から見た改善策	次年度は、今年度とは異なる教員の実施を計画したい

1	部・科・学年	工業管理部
3	努力点	生徒の学ぶ意識を喚起する評価方法を検討する。
4	評価項目	実習の評価方法の見直し。
9	評価結果	A
10	改善されたこと	実習の評価方法の改善につながった。
11	結果から見た改善策	さらに、改善を進めていく。

1	部・科・学年	工業管理部
3	努力点	教職員が常に知的好奇心を持ってスキルアップを図り、指導力の向上を目指す。
4	評価項目	各科の専門性を生かしながら、学校の特色化に取り組む
9	評価結果	B
10	改善されたこと	防災教育の取組や地域への発信。地域のイベントへの参加等好評を博した。
11	結果から見た改善策	さらに積極的に推し進めていきたい。

1	部・科・学年	生産機械科
3	努力点	資格取得の合格率の向上
4	評価項目	QC4級・危険物乙4類・情報技術検定3級
9	評価結果	C
10	改善されたこと	あまり取得率は変わらなかった。
11	結果から見た改善策	指導方法の見直し、改善をしていく。

1	部・科・学年	電子科
3	努力点	専門的知識・技術の習得
4	評価項目	専門研修・講習会・発表会への参加
9	評価結果	B・・・4名の職員が2回以上参加
10	改善されたこと	新たな分野の専門研修に参加した職員がいた。
11	結果から見た改善策	次年度以降も積極的に研修に参加し、自己の資質向上に努める。

1	部・科・学年	電子科
3	努力点	新規導入実習教材の活用方法
4	評価項目	デジタルオシロスコープを用いた実習指導
9	評価結果	A 研修会12月に実施した。テキストの整備が100%完成した。
10	改善されたこと	新規機器の指導法について全職員が理解した。
11	結果から見た改善策	科内研修会の実施が有効であるため、次年度以降も機会を設けたい。

1	部・科・学年	建設科
3	努力点	教員の専門分野の知識や技術・技能の向上
4	評価項目	2級施工管理技術検定試験や測量士補、技能検定等の合格者
9	評価結果	A 受検者数総計：318名、合格者数総計：263名、合格率：82.7%
10	改善されたこと	指導方法などの工夫
11	結果から見た改善策	資格試験合格者数増加に向けての指導体制を再度見直したい。

4 教職員がお互いに支え合い、明るい職場環境づくり A:1(50.0%) B:0(0%) C:1(50.0%) D:0(0%)

1	部・科・学年	生徒指導部
3	努力点	規則正しい生活習慣の徹底
4	評価項目	特別指導を通して生徒理解に立った生徒指導を実践できたか
9	評価結果	A
10	改善されたこと	昨年度よりも問題行動は増えたが、科・学年を通して連携が図れている。
11	結果から見た改善策	今後も科・学年との連携を図りながら指導ができるような環境づくりに努めていきたい。

1	部・科・学年	渉外部
3	努力点	開かれた学校づくり
4	評価項目	HPを活用した広報活動
9	評価結果	C
10	改善されたこと	HPにより主要な行事を取り上げることにより、保護者のPTA行事の認知度が向上できたのではないかと。
11	結果から見た改善策	次年度、PTA総会やPTA研修旅行等の前にHPに掲載したい。

5 複数の目標 A:1(50.0%) B:1(50.0%) C:0(0%) D:0(0%)

1	部・科・学年	健康安全指導部
2	重点目標の(1・2)	1「つもり」学習をやめさせ、「気づかせる」学習を図る 2創造型実践技術者の育成を図る
3	努力点	環境の美化
4	評価項目	清掃状況の確認(本館のHR、廊下、階段、トイレ、昇降口)
9	評価結果	A
10	改善されたこと	
11	結果から見た改善策	来年度も継続して実施したい。

1	部・科・学年	電子科
2	重点目標の(1)(2)	1「つもり」学習をやめさせ、「気づかせる」学習を図る 2創造型実践技術者の育成を図る
3	努力点	「気づかせる」学習の浸透を推進し、専門的技術の習得を図る
4	評価項目	第2種電気工事士、工事担任者DD3種
9	評価結果	B 第2種電気工事士 70.5% 31/44 工事担任者DD第3種 76.9% 30/39
10	改善されたこと	なし
11	結果から見た改善策	昨年度より合格率が下がった。次年度は75%以上の合格を目指す。

6 総括

年度当初に校長より八幡が丘ウェイ及び重点目標4柱が示された。それに基づいて各部・各科で目標を定め活動をした。全体を通してA、Bの評価が多かったが反面C、D評価も出ている。今後低評価の項目について如何に底上げをしていくかが課題となる。また、評価の時期については、資格試験の実施時期と合わないものや、現在2学期に実施しているアンケートについても、その時期での精度について検討を要する。評価項目等については、昨年度の反省を受け、なるべく重複を避け整理精選をした。そのため、職員に一覧表の形で配布し、折りにふれて確認しやすくなることができた。次年度の課題としては(1)C、D項目を向上させる(2)Aで達成できた項目の維持(3)達成目標のさらなる発展(4)評価時期、の4点が上げられる。